

2026年7月31日

各位

テイカ株式会社

日刊ゲンダイにて当社記事が掲載

株式アナリスト・櫻井英明氏が執筆する日刊ゲンダイのコラム「プロが読む 次のブレイク銘柄」(2026年7月31日発行)に、当社に関する記事が掲載されました。

つきましては、コラム及び執筆者の概要並びに当社の新中期経営計画については以下のとおりですので、ご参照ください。

1. コラム・執筆者概要について

「プロが読む 次のブレイク銘柄」は、日刊ゲンダイにて連載されている株式関連コラムです。執筆者の櫻井英明氏は、日興証券で機関投資家の運用トレーダー、「株式新聞Weekly編集長」などを経て、株式会社ストックウェザーにて「兜町カタリスト」編集長を務めております。株式アナリストとして長年にわたり株式市場や個別企業の分析・解説を行っており、同コラムでは今後の成長が期待される企業を取り上げています。

今回の記事では、当社の100年を超える事業変遷や、医療・圧電材料事業における日米2拠点での一貫生産体制、中期経営計画の重点分野・成長投資戦略について紹介されました。

2. 当社の新中期経営計画について

当社は、当社を取り巻く市場環境の急速な変化を踏まえ、2026年5月に、新中期経営計画「MOVING-10 STAGE3」(2026年度～2029年度)を策定し、成長事業への重点投資と資本効率化に取り組んでおります。

本計画では、圧電材料と導電性高分子薬剤を重点分野に据え、ロボティクス、XR、バイオといった新規事業の育成にも挑戦してまいります。とりわけ医療・圧電関連事業においては、超音波診断装置に不可欠な圧電単結晶材料の需要拡大を大きな成長機会と捉え、日米2拠点体制の強みを活かした安定供給と品質向上に努め、2029年度には本事業の売上高を2025年度比約40%増となる60億円まで拡大することを目指しております。

当社は、こうした重点分野への積極投資と「グローバルニッチトップ製品の創出」「グループシナジーの活用」を通じて、計画最終年度の営業利益45億円、ROE8%以上の実現を目指すとともに、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。



中期経営計画「MOVING-10 STAGE3」の資料(5月13日公表)

https://www.tayca.co.jp/ir/pdf/MOVING-10_STAGE3.pdf

以上